

低受胎豚の経直腸超音波検査による卵巢所見と 血中プロジェステロン濃度，ならびに生殖器の病変

日高良一¹⁾ 羽上田陽子²⁾ 日高真千子³⁾ 上村俊一^{4)†}

1) 山口大学大学院連合獣医学研究科 (〒753-0841 山口市吉田1677-1)

2) 鹿児島大学農学部 (〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24)

3) 宮崎県 開業 (日高動物診療所：〒880-2102 宮崎市有田2342)

4) 宮崎大学農学部 (〒889-2192 宮崎市学園木花台西1h1)

(2008年9月8日受付・2008年11月28日受理)

要 約

低受胎豚18頭（未経産：7頭，経産：11頭）の卵巢を，経直腸超音波検査で観察したところ，5頭に黄体共存型寡胞性卵巢嚢腫が認められ，血中プロジェステロン濃度はそれ以外の低受胎豚の黄体開花期に比べ低かった（ $16.2 \pm 1.0 \text{ ng/ml}$ ， $23.1 \pm 5.3 \text{ ng/ml}$ ， $P < 0.01$ ）。解体後の病理学的検査により，慢性子宮内膜炎が8頭，子宮角盲端3頭，卵管間膜嚢胞2頭，卵管采癒着が1頭に認められた。低受胎豚の要因として，血中プロジェステロン濃度の低下を伴う黄体共存型寡胞性卵巢嚢腫と子宮内膜炎，子宮・卵管の形態的異常が示唆された。

——キーワード：子宮・卵管の病変，黄体共存型寡胞性卵巢嚢腫，低受胎豚。

----- 日獣会誌 62, 545～548 (2009)

† 連絡責任者：上村俊一（宮崎大学農学部）

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1h1 ☎・FAX0985-58-7787 E-mail : kamimuras@cc.miyazaki-u.ac.jp